

二〇二四年六月十五日

蓮の葉の珠水に棲む命なに	せいじ
池透けて見ゆ萍の細根かな	むべ
山峡の谷戸に展ぐる植田かな	澄子
門潜るや否やパノラマ濃紫陽花	千鶴
万緑を分かちて激つ瀬のま白	あひる
微塵子を籠めたる蓮の珠雫	うつき
広前を埋め尽くして蓮の甕	せいじ
水底に影の纏るるあめんぼう	むべ
日をはねて水かげろふや作り滝	むべ
行厨は瀬音涼しき宇治河原	はく子
宇治川の激つ瀬音の楽涼し	はく子
軒忍水車飛沫に常濡れす	康子
虫食ひの茄子太りたるほまち畑	なつき
寺涼しようおまいりと碑の迎ふ	もとこ
蓮巻葉大き浮葉を突き上ぐる	うつき
豊なはる山の緑の五彩かな	わかば
亭涼し竹籠に活く山野草	康子
梢洩る日矢に煌めく泉かな	康子

老鶯の遠弔して宇治の山	たか子
濃淡に紫紺織りなす菖蒲池	むべ
三重の塔万緑を貫きぬ	ぼんこ
植田いましざるがごとき雲の影	澄子
宇治の辻新茶の茶舗の立ち並び	千鶴
御神木樹齡三百木下闇	はく子
苔の花小さき地蔵の祈りの手	もとこ
広芝のスプリンクラー虹生る	かえる
宇治なれや抹茶づくしのかき水	うつき
緑陰を占めて瞑想吟行子	こすもす

定例WEB句会みのる選

二〇二四年六月十五日